

日本の課題

通番	区分	テーマ	ねらい・概要	スライド	使用教材
1	I・II		各自が「あるべき社会」について考えるときに、現在日本の課題と考えられているものをデータとともに示す。これらを踏まえて自分の問いを創る		

時間	スライド	ファシリテーション・生徒の活動・留意点など
15分	<p>日本の課題</p>  <p>「OECD1人当たりGDPと生産性」</p>  <p>「先進7カ国1人当たりGDP順位」</p>  <p>「OECD1人当たり生産性上昇率」</p>  <p>腕時計に続く次世代 20万円未満、スマホ時計で稼働10年以内1台、充電ケーブルでなくとも6ヶ月充電、ほぼ手入れなし</p> 	<p>他の国と比べることによって、日本の特徴的な事象や事柄を見出す。</p> <p>世界の高校生と比較して、国や社会に対する意識が低いことが指摘されている。 本校 SSH 選択者を対象として取ったデータも示す → アンケート調査を実施する</p> <p>1人当たりの GDP や生産性において、日本は他の OECD 加盟国と比較して低い値を示している。</p> <p>過去のデータと比較してもバブル時、一時的に上昇した時期はあったが、その他はずっと低位に位置している。</p> <p>さらに1人当たりの生産性上昇率について、ここ最近数年も見ても OECD 各国は1～3%程度上昇しているが、日本は、マイナスとなっている。</p> <p>何が要因になっているかは定かではない。 いろいろな観点から検証していく必要がある</p> <p>例えば、腕時計について、日本は正確さ、価格、機能を追求してきたが、最初に開発した技術はすぐに真似されて陳腐化してしまう。</p> <p>一方、歴史や物語のある製品は他に置き換えることができない価値を持つ</p>

30分

防水なし 毎日手洗きの様子を数秒で
メンテナンスで記録する時計



価格 数百万円

「正解」の価値 低下

「問題」の価値 上昇

「正答」を求めるか、「物議」を醸成するか
→新たな価値を生み出すこと～

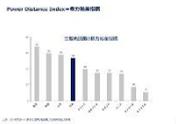


本質的な発見によってパラダイムシフトを成し遂げる人間のほとんどが、年齢が非常に若い
か、あるいはその分野に入って日が浅いかのどちらかである。

トーマス・スタン「科学革命の構造」



40分



【図4】「パワードイスタンス」(「ステータス」や権威的階級意識)

「個性」は自己中心に考えられたものだと思っているがもっと深いところから来ている。
人は「無明」を押さえさえすればやっていることが面白くなる。

預明＝生きようとする目的意識

【人間の存在】(岩井俊雄)【06年】

本能や自我、個性を押し出すことが知力や芸術を低下させている

【人間の存在】(岩井俊雄)【06年】

創造力

未来の課題に向かって戦う
唯一の武器

「正解」の価値が低下し、「問い」の価値が上昇する

これらの現象を象徴するものとして、テレビのリモコンを例にとる

機能面のみを追求すると「同じ正答」に行き着く。常識にとらわれずに「そもそも」から根本的に「リモコン」を考えると「音声で操作する」という発想が出てくる

常識を疑い、本質的なパラダイムシフトを成し遂げるのは「若い人」
→ 長くその世界にいると、だんだん見えなくなってくるということが原因かも？

次の図は何を表しているか、考える

→ 創業者が起業した年齢

→ 「若さ」は貴重な財産 年長者に気後れせずにどんどん自分の意見を言おう

自分の人生について、「どのような自分で在りたいか」さらに、「どのような社会を望むか」ということを考える材料を集める

ワーク

ここで示したデータ以外に、どのようなことがらやデータを調べてみたいか？